

文

とであう

知

とであう

人

とであう

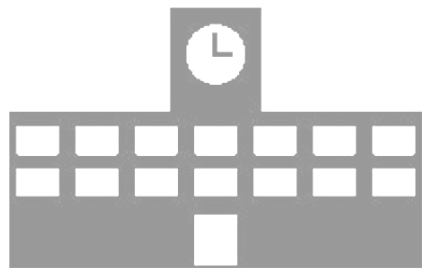


出会い
つながり

僧侶体験

- 掃除
- 座禅
- 写経
- 炊事
- 説法
- 学ぶ

学校から生徒が課外学習として、お寺で僧侶として生活する国語や社会の科目に加え、説法や宗教といった学校では教わらない事を学ぶ



『物産店』
各地の伝統工芸がよつてくる

日本の各地には数多くの工芸品がある。民芸品、織物、陶磁器等。更にはお寺も伝統的な工芸品と言えるのではないだろうか。

一方で伝統工芸に対する価値が薄れている。現在は消費を目的としたモノが溢れている。そこで、寺の境内を利用して、「全国伝統工芸市」を開く事を提案する。

01 文化とであう



各地の神社仏閣の境内を利用し、ある一定の期間、例えば一カ月毎に工芸品がよつてくる。七万を超えるお寺を通して日本全国を工芸品が巡る。各地の伝統工芸品に触れる機会を増やす。

伝統工芸品からはモノとしての価値があり、その背景には歴史もある。先人の知恵、思想にも近づくことが出来るのではないだろうか。

伝統的な場所です伝統的な品を、新しい時代の人々に伝える。

物産展

全国各地の伝統工芸品が77000を超えるお寺を巡る伝統工芸品と出会い、日本の素晴らしさを再認識する



僧侶体験 お寺の仕事学ぶ証拠

現在の日本の教育には数学や英語、地理、歴史等の科目がある。これらで学ぶ事は網羅されているかのようである。しかし宗教についての知識、信仰心、死生観といった切迫の科目はない。このような科目が見当たらない理由は、かつて日本の歴史を見ればわかるように自然と身につけて来たものであり、学校の役割ではなかった。



ここで地域の学校からお寺に生徒を送る「僧侶体験」を提案する。

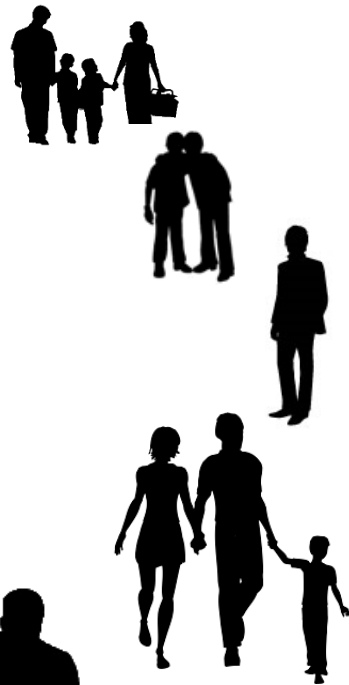
お寺で生徒たちは二週間から一カ月泊まり込みで生活する。親元を離れて生活するが近所のお寺という事も安心感がある。

通常の授業に加え、境内の掃除、炊事、写経、座禅を特別科目とする。ここで経験する事は、外から学ぶ学習ではなく、内から人間を育て、知識のある人ではなく、教養のある人を育てる。子供たちの成長が未来を育てる。



出張授業

子供から大人まで様々な分野の
講義が本堂で行われる
二週間に一回講師を招く。
地域の方の経験談を聞いてもよいかもしれない



02 知識とであう

図書館システム
各地に図書館を

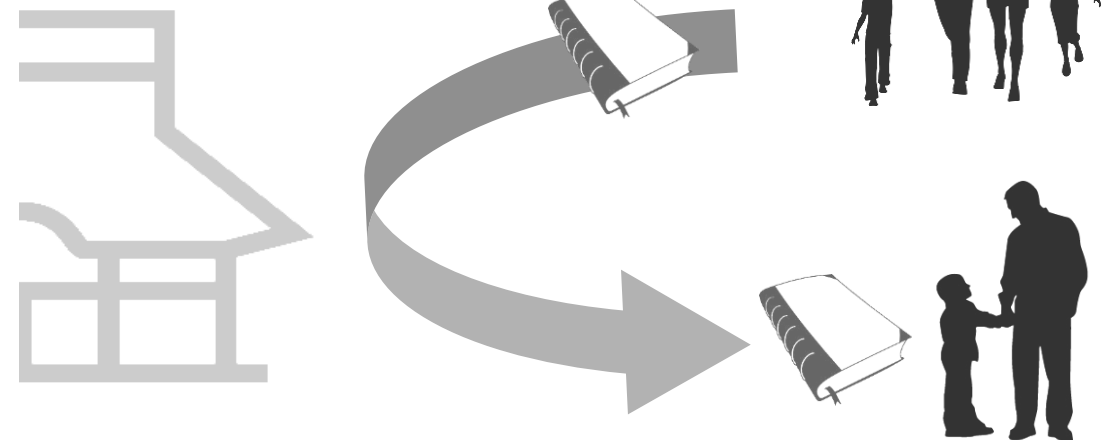
地域住民の図書館の機能を
持ったお寺を提案する。
本が集まるという点では図書
館と同様である。但しここで
は個人個人が本を持ち寄り寄
付していく。それらの本には
所有者の名刺が貼り付けてあ
り、本の持ち主ともコミュニ
ケーションを取る事が出来る。
子供にとって伝統、歴史につ
いて教科書で学ぶだけでなく、
お年寄りとの会話をすることで
感じる事が出来る。

本を通して世代を超えた繋が
り、また思いがけない出会い
やモノに対する様々な見方、
教養を育むことができる。
お寺自体が昔からずっとそこ
にあり、世代を繋いでいくこ
う機能を持っている。
子どもは将来の夢や希望の為
の活動を、お年寄りは、次の
世代への期待と願いを伝える
活動を行い世代間の夢や希望
の架け橋として機能するお寺
を目指す。



図書館システム

子供からお年寄りまで開かれた場所とする。
そこには個人が本を持ち寄り、
寄付して本を貯めていく。
本を通して繋がり、深く学べる事が出来る。



出張授業
地域を育てる

社会人になった時とれだけ社
会に対する勉強をしていな
かったかがわかる。学生の間
に様々な分野の知識、経験を
していたらと後悔する人は少
なくないだろう。その証拠に
大学の公開授業が巷で人気
を呼んでいると聞く。
最近の子供達はお説法を聞く
という経験は少なくなったの
だろう。



ここで「出張授業システム」
を提案する。

お寺を講義する場として利用
し、様々な授業を行う。
科学、文学、政治、経済、宗
教、お説法、昔の実体験、各
種セミナー。寄席等の娯楽を
行ってもいいのではないか。
子供から大人まで自由に参加
学習できるお寺を目指す。
その結果、学力向上、人格の
形成が進み、地域の繋がりが
強くなる。その中心に位置す
るお寺になる。



物々交換

モノをお寺に持ち寄り、互いにモノを交換する。寄付した数だけ持ち帰る事ができる。モノに対する想いを共有する場でもある。



03

人とであう

安宿システム
旅を身近に地域に元気を

古くからお寺は人々に開かれた場所であった。和を重んじ、憩いの場所として多くの役割を果たしてきた。
しかし今、お寺からは人々は離れ、葬式、お盆、お祭り等の決められた期間にしか行く機会が無い。
ここでお寺を格安で泊まれる宿泊施設として活用する事を提案する。

子供、大学生、日本を旅する外国人留学生、旅行者に対して広く門を開く。

食事付きで一泊出来る。しかし、働かざるもの食うべからずと言う通り、お寺の掃除、炊事、その他の仕事をしてもらうこととする。非日常的な時間、空間の中で、地域に対するお寺の役割は何か？とあったようなお寺に対して動的に考えるきっかけにもなるだろう。
外国の方々には日本を伝えるいい機会であり、その和が広がれば、お寺へ訪れる人が増え、「一人」と「お寺」の距離が近づくと考ええる。



安旅システム

誰に対しても安く宿を提供する。掃除、炊事などの日々お坊さん達が実践していることを手伝う。外国人大歓迎！！

Would you lodge me ?

わかりました。但し、地域のためにがんばっていただきます。

働かざる者、食うべからず



物々交換
消費社会こんな世の中だから
こそ物を大切に

日本は昔から地域固有の限られた資源でモノを作っていた。そのため地域に根付いた伝統品と呼ばれるモノがある。現在は古きは捨て、新しいモノに買い換える。それに誰も疑問を抱かない風潮が蔓延し、「古い」という事だけで新しいモノに換えなければ、という価値観が生まれる。さらにそういった価値観に拍車を掛けているのが現状である。

時代柄、物質は溢れて、使えなくなるに捨てられるモノもおおくある。形あるモノはいつかは無くなってしまふ。

しかし寿命を全うすることなく、捨てられてしまうのは何とも悲しく感じるのではないだろうか。
そこで、「物々交換市」を提案する。
週末に、人々が使わなくなったモノを持ち寄り、他人のモノと交換できる市場。モノ自体を交換するのではなく、モノに詰まった想いを交換継承する場所である。消費を促す地域文化ではなく、活動の仕方、モノに対する思いやりを学ぶ。これらを通して、地域の人々のつながりが強くなり、モノの持つ価値を再認識出来るだろう。

ハードを超える

ソフトの強さを

育てる寺に。



おばあちゃんと
話すことが
増えた。



これから
学べることは
たくさんある。



近くにたくさん
本があるって
すばらしい。



座禅って
なんなんだろう？



日本の伝統技術は
すばらしい
それを知ってほしい



仕事ってたのしい
他にはどんな仕事か
あるんだろう？



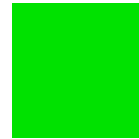
これほしかったの
ラッキー



日本は
良い国です。



絵本を
ありがとう。



出会いから

人がつながる



物々交換って
すばらしい。



伝統技術を
伝えたい



仕事って
大変だけど
楽しい。



座禅をすると
心が落ち着く。



本を
ありがとう。



こんな
場所がほしかった。



伝統工芸品って
すごいんですね。



旅って
学ぶことが
たくさんある。



お寺から
日本がひとつ
つながる